

霊次元ゲームネプテューヌ（リメイク）

キャラ暢

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

前作の霊次元ゲームネプテューヌの完全リメイクです。あとオリジナルキャラは原作ネプテューヌの世界でネプテューヌたちと出会い共に冒険しています。これは超次元ゲームシリーズ後のオリジナル物語から始まります。

目次

設定その1	1
設定その2	3
プロローグ	5
プロローグ2	7

設定その1

ライ

所属 霊界軍

階級 総隊長

霊刀

オ리지ナルキャラクターで今作の主人公の師匠でもありある事件でネプテューヌと出会い恋仲となる。その実力はこの作品で最強の実力を持つまた総隊長としての仕事もこなしていることから雑務と実務の両方をこなしているイチカとは偶然ある組織について調査している最中にISの第二回大会での一夏誘拐を見ていたため助けることがきつかけでその世界線の一夏は周りから姉や転生者の弟と比べられていたため自分の弟として引き取って自身の後任として鍛えている。

以降設定追加予定

イチカ

旧姓織斑一夏

所属 霊界軍

階級 霊界軍本部一番隊隊長

霊刀

本来なら原作インフィニットストラトスの主人公なのだが転生者によってヒロインを含め原作前は周りから織斑の恥や無能と言われていたが実際には教育環境や年上の姉である千冬や転生者の特典で嘘のチートを手に入れた弟が凄いのとは当然だったため原作と違い不良じみていたがライと出会いネプギアとの出会い絆を深めていったことで性格が元に戻っていった。mk2ストーリーではライの命令でネプギアたちを援護した。容姿は原作よりもクール系になっており首筋あたりにネプギアを庇った際の傷跡が残っている。

以降設定追加予定

ネプテューヌ

所属 プラネテューヌ

プラネテューヌの女神

ライのヒロインで超次元ゲームネプテューヌの主人公この作品では、ヒロインしかしメインヒロインのネプギアよりも目立つかもしれない原作と少し違ってほんの少しだけ女神の仕事をこなすようになっている。実力はアニメ版よりも強い

ネプギア

所属 プラネテューヌ

プラネテューヌの女神候補生

本作のメインヒロイン基本的には他のキャラクターたちよって目立たないが今作ではおそらく一番出番があるかもしれない実力はアニメよりゲームよりの実力になっている。

霊界

全ての世界を外から監視している。ただし超次元ゲームの世界は霊界と同じようにひとつの世界として確立されているため監視できないまた人の死後霊界で罪を償ってから神様転生や異世界転移されるはずが霊界の霊界軍の人材不足と神々が自分たちの娯楽としていろんな世界に転生者や転移者を送り込み続けた結果さらに人材が不足している悪循環となっている。そのためライや幹部たちは監視したりしている世界から人材を確保して育てたりしている。また死んだ後の人も隊員として育成したりしている。

簡単に言えば平行世界や異世界を含めた全ての世界の死者やその世界に生きている者たちの監視の役目を持つ世界

設定その2

ヒヨウ

所属 霊界軍

階級 総隊長補佐

ライの親友で霊界軍の参謀的存在しかし、同じ親友でもダイを挑発することが多く残りのフウとエンに止められることもある。

それでもライを含めた者達からの信頼も厚くなんだかんだ言いながらもダイを信頼している。

実力は霊界軍の中でもライほどではないがイチカよりも遥かに強く敵対したら容赦なく相手を倒す。またイチカの親友のスイの師でもありイチカにとっては霊界での基礎知識を教えてくれた恩人でもある。

以後追加あり

ダイ

所属 霊界軍

階級 総統括支部支部長

上記の通りライの親友で霊界軍の全ての支部を指揮する立場にいる。ゆえに常に人手不足に頭を抱えているそのせいかヒヨウの挑発によく反応してしまうことが増えたしかし、そんな人手不足の中でも支部の戦力を均等に振り分け配置するなどの優れた手腕を発揮している。

また、実力もヒヨウに並ぶ基本的に弟子はいないが既に自身の後任候補を見つけておりいつでも弟子として迎え入れる勧誘をしている。

以後追加あり

フウ

所属 霊界軍

階級 大隊長

上二人と同じくライの親友で霊界軍本部の警備や捉えた転生者を監視している。

下に二人の弟がいるそのうちの一人はダイの後任として育成して

おりもうひも自身の後任として 鍛えている。

大隊長の階級の通り実力は高くヒヨウたちに並び立つ実力を持つダイの悩みである人手不足を解決すべく訓練所の訓練を前線で戦っている者達を呼んで行なわせている。

以後追加あり

エン

所属 霊界軍

階級 二番隊隊長

上3人と同じくライの親友で霊界軍本部の総隊長の部屋を警備する二番隊を指揮している本来は二人になる予定だった総隊長補佐就任を辞退して若手の育成の為に現場での戦力として残ったまた、ライを含めたヒヨウ、フウの不在の時は代わりに指揮を執る実力は霊界軍の中でも上三人と互角に渡り合える力を持つ

以後追加あり

スイ

所属 霊界軍

階級 三番隊隊長

イチカの親友でヒヨウの弟子そしてイチカとのコンビは霊界軍の中でもトップクラスの連携で知られている。

ヒヨウから三番隊の隊長の座を譲り受けた本人もヒヨウからいろんなことを教わり実力を高めている。

未熟ながらも霊界軍の中でも最精鋭の五番隊までの隊を任されているため実力は高くそして、将来イチカとともに霊界軍の頂点に立つことを期待されている。

以後追加あり

用語

総隊長

霊界軍の全てを纏める者で全ての世界での実力者を圧倒する実力を持つ、そのため総隊長になるには霊界軍の全ての幹部を倒すか現総隊長を倒すのどちらかをこなす霊界軍の全隊員からの信頼を寄せられていなければならないという条件がある。

プロローグ

此処は何処かの荒野人が住んでおらず生物もいないそんな世界で二人の人刀を抜いて対峙していた。

一人は髪が黒く目が少し上がっている。もう一人は同じく髪が黒く目は対峙している人物を睨んでいた。

「行くぞ。」

「いつでもこい。」

そう言い合い互いの武器を構え飛び出し互いに斬り合い始めた。片方が切り上げをすともう片方がその攻撃を受け流しあるいは武器でガードしていた。しばらくそんな攻防が続いていたが受けに回っていた方が武器の構えを変えて言った。

「紫電流一の型電光斬」

「しまつ、ぐつ」

攻撃に気づきその一瞬の攻撃を受け止めようとしたが受け止めきれずくらい倒れた。

「今日は此処までだイチカ。」

そう言い自身の武器を鞘に直し続けて言った。

「まだ少し油断している処があるいつも言ってるだろ、周囲の警戒も大事だがそれ以上に、何だったか言ってみろ。」

そう言いイチカと呼ばれた人は立ちながら続けた

イチカ「目の前にも集中しろ。であつてますか？」

「そう言い聴くと聴いていた人が頷きながら」

「その通りだちゃんと覚えたんだな。」

対してイチカは、

イチカ「当然ですよ、だって俺の師であり霊界最強にして霊界軍の総隊長であるライの弟子なんですよ。ちゃんとしないと師であるあなたの顔に泥を塗ることになるじゃないですか。」

そう答え続けようとした瞬間突如青い光が出て光が消えると一人の隊員が出てきて言った。

隊員「報告します。全隊長と支部並び局の統括長と最高幹部たちが

会議室に揃いました。」

その報告を聞きライは

ライ「報告ご苦労戻っていいぞ。」

と言うと報告に来た隊員は

隊員「わかりました。」

そう言い一瞬でその場から消えたかのようにいなくなったそれを確認してイチカが確認するかのようになり始めた

イチカ「ライさ、総隊長何故今回幹部たちを集めたんですか？」

ライ「何故だと思う、考えてみる。」

イチカの疑問にライはそう答えた

イチカ「そうですね。(幹部たちを集めるほどの大事件が起きたとしか考えられないが、それならこんな処でのんびり修行する余裕がある筈ないだとしたら総隊長の気まぐれか?) 気まぐれですか?」

ライ「違うな、俺とてそんな気まぐれで全員を招集するほど暇があるわけじゃない。」

イチカの問いにたいしてライは答えた。そして続けて言った

ライ「イチカお前や一部の幹部たちに命令を出す予定だ」

イチカ「まさか」

ライ「ゲーム業界を覚えているな?」

イチカ「確か総隊長たちや俺たちが最近までいた処ですよ。それがどうしたんですか?」

ライ「そこに例の組織の存在が確認されたそれで緊急であいつらを呼んだ。」

イチカ「例の奴らがゲーム業界に!?!」

そこには驚いた顔があった

プロローグ2

ここは霊界全ての死者の集う場所とも言われている。そこにある全ての世界を監視し、時には介入する霊界軍の本部も存在している。

現在ここ霊界軍本部の会議室では本部主力の18人の隊長と隊長たちを束ねる大隊長、各世界を4つに分け各方面を監視する支部の統括支部支部長たちとその上に立つ総統括支部支部長、そして総隊長補佐と総隊長の計25人の人物たちが集まっている。

集まった全員が沈黙してる中ライが話し始めた。

ライ「さて、今回集まった理由はわかってているだろうが例の組織が動き出したことについての会議だと考える。」

そうライが告げるとライのひとつ下がった左にいる人物が返すように言った

???「ライ、そうは言っても連中は娯楽のために神々からめんどくさいほど厄介な力を授けられているんだぞ、戦うにも厄介な連中だ」

そう告げた人物に対してその正面の人物が話し始めた。

???「ダイ、全ての支部を束ねる統括支部支部長ともあろう人物がなんでそんなに弱気な発言をする貴様なら一撃で片付けられるだろうに」

ダイと呼ばれた人物は挑発にたいして反論を返した。

ダイ「あのなあ、ヒヨウ、俺たち隊長クラスや支部長クラスや支部長補佐、それに本部主力の隊の奴らなら苦戦はしても負けることはないが一番の問題は支部の戦力不足のせいで人手が足りないんだ。」

そう言い合う二人の間に口を挟むようにヒヨウの隣にいた人物が口を開いた。

???「ヒヨウ、ダイ、少し落ち着いたらどうだ？戦力不足は言い合っ
ていてもは始まらないだろう。」

ダイ「それもそうか、一旦落ち着くのが最善だな」

ヒヨウ「了解した。」

ライ「ヒヨウ、ダイが静かになったしな、フウ報告を頼む。」

ライの言葉にフウと呼ばれた人物は静かに話し始めた

フウ「連中は一部の神の力を借りてゲーム業界に転生したのを確認した。調べたところ転生した人物は本来なら記憶持ち転生ではなく、普通の輪廻転生の予定だった、しかし先に言った通り一部の神によって勝つてに転生した。面倒なのは奴が持つ特典で確か原初の世界で Fate と呼ばれている世界の英雄王ギルガメッシュの力を持っている。これは既に奴を転生させた神をしばいて事実確認を完了している。」

ライ「そうか確かそいつの力は厄介だが力を使いこなせるならな、現状力を使いこなしている奴は基本的にこつち勢力の神々が転生させた奴らが多い、けれども向こうの幹部クラスには普通に力を使いこなしている奴もいるがそつちの対策は今はいいとしてゲーム業界に派遣する人物を言う。本当は隊員を送りたいがあの世界は俺たちにとっても大切なところだ。そうゆうことでイチカ、スイ、フウト、フウヤの4人を送るその後俺、フウ、ダイ、ヒョウ、コウ、テイも行く。残りは追って待機並びにいつでも来られるように準備しておけ、エン待機組をまとめておけ。」

全「了解。」